

きずな

発行 綾部市教育委員会教育部社会教育課

電話 0773-42-4326

E-mail shakaikyoiku@city.ayabe.lg.jp



「やる気」

「好奇心」

「考える力」を育む



非認知能力とは

コミュニケーション能力や自尊心、社会性など数値で示すことが困難とされる力のこと



今こそ

「考える力」が必要！

「はじめないと
はじまらない」

ドイツの哲学者

フリードリヒ・ニーチェ

(1844~1900)

今、「考える力」が必要とされるのは、これからの時代が「予測不可能な時代」といわれているからです。これについては、世界で猛威を振るった「新型コロナウイルス感染症」によって、新たな生活様式への転換をよぎなくされたことなどで実感されているのではないのでしょうか。

「予測不可能な時代」において、「好奇心」や「やる気」などの非認知能力を育むことが、「考える力」を高めることにつながります。

今回は、「考える力」を育むために親子で取り組めることを紹介します。



「考える力」を育むために

～親子で取り組んでみましょう～

年中ぐらい
から

その1 例えは何？

〈例〉「赤くて四角いもの何があるかな？」

〈効果〉

あてはまるものをあれやこれやと探していくことで、評価する力や推論する力を芽生えさせる機会になります。

- ◇ お子さんに「赤」や「四角い」など基本的なきまりの組み合わせを考えさせます。
- ◇ 一つ出せたら、違う例を出させます。例が出なくなったらきまりを変えて問いかけます。
- ◇ お子さんが慣れてきたら、より関連の薄いきまり（うるさくて丸い）やきまりの数を増やす（丸くて赤くて美味しい）など、難易度をあげていきます。



小学生ぐらい
から

その2 目的さがし

〈例〉「どうして信号があるのでしょ？」

〈効果〉

根拠を見つけてその理由を表現させることは、推論する力や説明する力をさらに伸ばすことにつながります。

- ◇ 特定のルール（赤信号では止まる）や道具の機能（どうしてさい箸は長いのか）などの話題を選んで、その目的を予想し説明させます。
- ◇ 最初は目に見えたり、触ったりできる道具から始めます。慣れてきたら社会のルール等（廊下は走らない）もよい話題になります。
- ◇ お子さんの考えに対して、違う視点を伝えることは、考えを深めることにつながります。



お子さんとのたわいもないお話時間は、親子ともどもほっこりできるとても大切な時間です。そんなお話時間の中に、1週間に5分程度遊びの延長として、お子さんと思考のあるお話時間をつくってみられてはいかがでしょうか。